

ヨハネの福音書 第3章 8節

「風はその思いのまま吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くのかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、その通りです。」

凍てつくような風、頬に射すような鋭さを感じさせる冬の風が通りを過ぎてゆく。周りの木立の葉はすっかり枯れ落ち、裸になった。木々の間を吹き抜けてゆく季節もあとしばらくすると、寒い季節とともに、いつのまにか吹き抜けてゆく。

今日は雨上がりの天気となった。地面から湧き上がる湿気が冬期とは異なる風をもたらす。頬にやさしく、潤いをもたらす柔らかな風となる。呼吸するのもやさしい風である。寒気で裸になった木立には、新しい芽がかすかに顔を出し始めている。時々寒風が吹き抜ける日もあるが、春を呼ぶ風が主役となる 때가確実に来る。

どの風でも、その行方を追うことは出来ない。ただ、どんな風でも身に受けるなら、風がもたらすメッセージを体感することができる。からだ一杯に吸い込むことができる。内と外に風の季節を喜ぶ。御霊によって生まれる者は、聖なる息、聖なる風を全身全霊で受け止め、からだ一杯に吸い込み、満たされ、御霊のときを生きる。